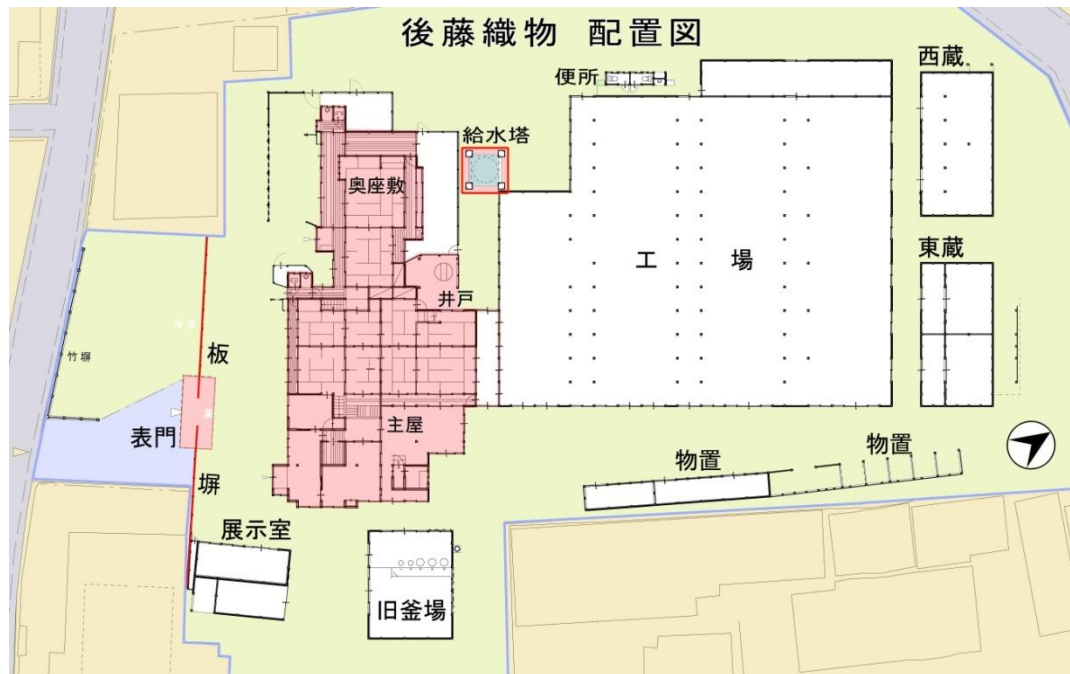


後藤織物

門・主屋・奥座敷・
井戸屋形・給水塔

南側道路に面した竹製の塀に沿って門をくぐり後藤織物の敷地に入ると、南面する主屋が目に入る。主屋は西側で奥座敷と連結する。連結部の北には井戸が掘られ、これを囲う様に井戸屋形が建てられている。この西側には井戸水を汲み上げて染織等に使用するための給水塔が建てられている。



名称：後藤織物表門及び板塀門

構造：門木造、棧瓦葺

間口：4.5メートル

両側に1.15メートルの袖壁を設け扉を引き込む。袖壁の腰部は下見板張で上半部は漆喰壁。左右の中央に柱が立ち、切妻造の屋根を支える。

板塀

構造：板塀鉄板葺（当初瓦葺）

延長：23メートル

年代：大正14年頃

門の左右に設けられた板壁である。



名称：後藤織物主屋

構造：木造2階建、鉄板葺

面積：226平方メートル

年代：明治前期（大正14年増築）

後藤織物の主屋は、初代定吉が分家として定住した明治前期に建築されたと考えられる。

建物は事務所（当初の土間部）と製品を仕上げる8部屋の仕事場と土間に大きく三区分できる。北側半分を占める仕事場4部屋と、その東側の土間部は大正14年に増築されたものである。2階部分の天井高は低く造られ時代性を表している



名称：後藤織物奥座敷
構造：木造平屋建、瓦葺
面積：97 平方メートル
年代：大正 14 年頃

主屋の西側に接して建築される。

後藤織物の製品や資料なども陳列され接客用の部屋として使用されていた。

10 畳と 12 畳半の二間が東西に続き南側と北側に廊下を設ける。また、南側中央東寄りに独立した玄関をもつ。



名称：後藤織物井戸屋形
構造：木造、鉄板
面積：8.5 平方メートル
年代：昭和 8 年頃
井戸

主屋背後西側、工場との間に設けられる。

直径：1.4 メートル

深さ：未計測

壁面は人頭大の川原石で積まれる。

年代：昭和 8 年

井戸は現在コンクリート製の蓋で閉鎖されている。



名称：後藤織物給水塔
構造：鉄筋コンクリート造
規模：面積 5.7 平方メートル
年代：昭和 8 年頃

貯水槽 直径：約 2 メートル。

高さ：約 1 メートル。

台 高さ：約 2 メートル

柱間：約 3 メートル

工場の南西隅に建てられており、4 本の四角柱で貯水槽を支える。水は井戸から汲み上げた。染色には多量の水が必要のため設けられた施設で、かつてはもう 1 基が併設されていたと伝わる。